

第70回車座集会意見交換内容（川崎区）

- 1 開催日時 令和6年12月1日（日） 午前10時00分から12時00分まで
- 2 場 所 川崎市役所第3庁舎1階ロビー、2階かわさき多文化共生プラザ
- 3 参加者等 参加者12名、傍聴者3名 合計15名

<開会>

司会：お待たせいたしました。定刻となりましたので、ただいまから第70回車座集会を開会いたします。

私は、本日の司会を務めます、川崎区役所企画課長の成沢と申します。よろしくお願いいたします。

まず初めに、本日は中国、ベトナム、フィリピンのご出身の方にご参加いただいています。説明などは日本語で行い、適宜、通訳を挟みながら進行させていただきますので、よろしくお願いいたします。

今回の車座集会の意見交換の会場である2階のかわさき多文化共生プラザは、今年の7月に本格オープンいたしました。多言語での生活相談やコミュニティづくりなども業務となっておりまして、本日参加された皆様には、ぜひ今後にも活用いただければと思っております。

本日の車座集会は、「川崎区が多文化共生～防災を切り口に地域でのつながりを考える～」をテーマに、川崎区にお住まいだったり、川崎区内で活動されていたりする外国につながるの皆様方と市長とで意見交換を行っていただく内容となっております。

初めに、行政からの出席者をご紹介します。

福田紀彦川崎市長でございます。

市長：おはようございます。よろしくお願いいたします。

司会：中山健一川崎区長でございます。

区長：おはようございます。よろしくお願いいたします。

司会：それでは、初めに、福田市長から一言ご挨拶をお願い申し上げます。市長、よろしくお願いいたします。

<市長挨拶>

市長：改めまして、皆さんおはようございます。今日は車座集会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

今、川崎市全体ですと5万5,000人の外国籍の方がお住まいです。川崎区にはその35%に当たる約2万人の方がお住まいです。

日本語が非常に得意な方もいらっしゃる、まだ日本語が少し不慣れだなという方もいらっしゃいます。その中で、いざ災害になったときに、本当にうまく地域の人たち、日本人と、それから外国籍で、日本の、例えば災害だとか文化だということにまだ慣れていない人たちも含めて、みんなが地域で安全に暮らせるようにしていくためには、お互い理解を深めていく必要があると思っております。

なので、川崎区で一番住んでおられるのは中国の方、次に韓国の方、ベトナムの方、フィリピンの方、ネパールの方ということになっていますので、上位5か国のうち、今日は3か国の方に来ていただいているということなので、皆さんとの議論を踏まえて、区役所も市役所も、どういうふうに、あるいは今日は地域から町会長の皆さんにも来ていただいておりますので、どうやって皆さんと一緒に情報を共有

して、一緒につながっていくかということを考えていきたいと思っています。
どうぞよろしくお願いします。

<自己紹介>

司会：ありがとうございました。

次に本日の進め方についてご説明いたします。

初めに、今日ご参加の皆様に、それぞれ1分ぐらいで自己紹介をお願いいたします。

次に防災ワークショップを行います。まず、川崎区役所危機管理担当の職員から、防災に関する基礎知識について説明いたします。その後、各グループでグループワークや意見交換を行っていただきたいと思います。

その後、2階にご移動いただき、福田市長をファシリテーターとする意見交換に移りたいと思います。

それでは、お名前、ご出身の国、日本に住んでどれぐらいかなどを、母語でも日本語でも結構ですので、お話しいただければと思います。

Aチームからお願いします。

白聖壘（はく せいしょう）さん：皆さんおはようございます。川崎区在住の中国出身の白と申します。

私は2011年の3月に日本に来まして、東日本大震災の3日前に日本に来たわけでありまして。川崎市に住み始めたのが5年前となりまして、今は社会人として働いております。

外国につながる若者の団体をつくりまして、共同代表、リットゾーン（The Lit Zone Beside）という団体をつくって、今、活動をしています。ふだんは外国につながる子どもの学習支援と進路支援をやっております。

以上です。今日はよろしくお願いします。

趙曉東（ちょう しょうとう）さん：皆さん、おはようございます。趙と申します。

自分は日本に来て約15年たちまして、僕は中1の頃に来ました。

日本に住んで、僕は15年間、ずっと川崎、しかも川崎区に住んでおりまして、当時も来て、いろいろ悩みを持ってここに来て、ようやくここまで大人になりました。

本日、どうぞよろしくお願いいたします。

何玉萍（か ゆうびん）さん：おはようございます。名前は何玉萍です、何が名字で、玉萍が名前です。

私は2017年の8月に日本に来ました。高校は川崎の大師高校だったので、今は大学生なんですけど、横浜に住んでいますけど、川崎区でいろんなボランティア活動を行っていますので、よろしくお願いします。

李清輝（り せいき）さん：おはようございます、皆さん。私の名前は李清輝と申します。

僕のほうもちょっと2011年のほうに、震災の直後に日本に来まして、最初は日本語学校に入ったんですね。2年の日本語を勉強して、次は4年の大学に入ったんです。大学のほうは神奈川県横須賀市のところで、社会福祉学科の大学に入って、社会福祉科から卒業したんです。ちょっと、今、もう日本に在住は14年目になります。自分にとっては、人生のほぼ半分以上、日本で経験して、自分の人生の半分を日本で暮らしています。大学を卒業してから、最初、保育園の放課後クラブの児童指導員で働いて、3年後、今、高齢者の分野に入って、デイサービスの管理者で勤めています。

本日、本当に誘われてありがたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

司会：Bチームの方、お願いします。

ファム ドック フォンさん：おはようございます。私はファム ドック フォンです。ベトナムから参ります。今年、18年目で2006年、日本に来ました。

もともとITエンジニアですけれども、日本大震災があって、結構苦しいことに経験しました。その後、日本ではいろいろの災害とかありました。現在、川崎区のところで、JDSビルの中で、KVSS、かわさきベトナム人留学生を支援する会のところで、また私のほう、自分の会社、スタートアゲイン株式会社に設定しました。今年は6年目で、ベトナム人の留学生とベトナム人の労働者とかを支援しておりますので、川崎区との縁が大体10年以上ですけれども、いろいろボランティアとかと、仕事も生活も経過しました。今度、1人だけなんですけれども、でも隣の人もベトナム人で、ちょっと相談させていただいて、何とかでも勉強させていただいたので、ベトナム人に対して、勉強したことを伝えて、災害、結構怖いんですけれども、ぜひいろいろお世話したいと思います。

司会：じゃあ、タンさんから。

ヴォ ティ ホワイ タンさん：おはようございます。ヴォ ティ ホワイ タンと申します。

2008年、初めて日本に来て、東日本大震災の半年前に帰国しました。2012年、また日本語に戻って、あれ以来、現在までずっと川崎区に住んでいます。

ふだんはふれあい館の通訳、ボランティアの通訳と、各小学校、中学校で外国につながる子どもの日本語指導支援員として活躍しています。

今日は参加できてとてもうれしいです。よろしくお願いします。

シェリル デグスマンさん：フィリピン人です。デグスマン・シェリルと申します。

大体10年、日本で10年いますけど、ふだんはちょっと日本語、学校と病院、ちょっと困っています。それだけで。

よろしくお願いします。

アイリーン エスコットンさん：おはようございます。エスコットン アイリーンと申します。

フィリピンから参りましたので、日本に来てから、2008年で、そのときにずっと川崎に住んでいますので、子どもが3人いますので、ちょっと学校や病院のいろいろな書類を記入するのは、ちょっと困っているのですが、でも、本当に川崎の方たちのトランスレイトとかいるので、それは助かりましたので。よろしくお願いします。

サマンサ ロイさん：フィリピン国籍のロイと申します。

日本が、2歳から日本にいますので、ほぼ中身は日本人だと思っているんですけど。やっぱりフィリピンで育った家族と日本で住んでいるので、日本の状況も分かるし、家族の状況も分かるという貴重な立場だと思うので、これを踏まえて、いろいろと両方の意見を混ぜて、いい結果が出せたらいいなと思います。お願いします。

神保リリベスさん：おはようございます。神保リリベスといいます。

日本に来てから、1990年代に来て、もう長いというか。長いんですけど、まだ完璧に日本語が1

00%にはならない、特に発音とかはなかなか難しい。現在はこの多文化共生プラザに働いています。いろんなフィリピンの方とか外国人、英語とか、相談とかを受けています。今はフィリピンの相談が多いです。頼りになっていると思います。皆さん、知り合いの方とか、フィリピンの困っている人がいれば、ここに案内してください。

災害に関しては、いろんなところでも参加したことがあります。幸区の河原町団地のときとか、いろんな小学校の災害関係の参加です。参加していました。こちらでも参加になります。よろしくお願いいたします。

ラレイーン ロレンテさん：おはようございます。ラレイーン ロレンテと申します。フィリピンから来ました。

日本に来て、2011年に来ました。日本に住んで8年ぐらいになります。千葉から。日本語が難しいから、自分で勉強したり、意味を探しているのです。

中学の娘、娘が3人いまして、1人が中学生で、たまに難しい学校からの資料とかいろいろ来るときは大変。資料が来ているときは、そのときは大変ですね。

コミュニティの共用語でヘルプをお願いして、何となく助けられています。ありがとうございます。

レロイ ロレンテさん：おはようございます。ごめんなさい、私は日本に18年なんですけど、日本語が下手くそなので、英語でしゃべります。

日本には18年、日本語学校は行ったことがないので、しかも私の会社が英語なので、今の仕事は、千代田建設。オイルガスの仕事でエンジニアをやっています。（隣が）奥様です。子どもたちを見てくれている奥さんです。日本に来て、静岡県に2年間住んでいまして、その後、川崎に来ました。川崎で6年で、仕事のため千葉へまた行きました。千葉県に5年ぐらい住んでいまして、その後、また川崎に戻ってきました。

奥さんが言ったとおり、娘が3人いまして、1人が今、中学卒業生で、もうすぐで高校生に入りますが。よろしくお願いします。

司会：皆様、自己紹介ありがとうございました。

<ワークショップ>

司会：それでは、ワークショップに移りたいと思います。

まずは危機管理担当からご説明いたします。よろしくお願いいたします。

危機管理担当：川崎区役所危機管理担当の西倉と申します。

私のほうから、防災に関する基礎知識と地域の方が行う防災活動についてお話をさせていただきます。

今日は4つの内容をお話しします。1つ目は大きな地震について、2つ目は津波について、3つ目は避難所について、4つ目は地域に住んでいる人の防災活動についてです。

時間の関係で全部の説明はできません。家に帰ってから、こちらの「備える。かわさき」を読んでみてください。お配りした資料の右上に水色のページ番号があります。「備える。かわさき」のページですので、詳しく調べるときは、そのページを見てください。

川崎市は、今後30年以内に約70%の確率で大きな地震が起きると言われています。今日は大きな地震に備えて、どんな準備が必要かお話しします。

川崎市で大きな地震が起きたら、家が壊れたり、火事が起きることがあります。川崎区では津波が起

きることもあります。たくさんの人が死んだり、けがをするかもしれません。命が助かって、電気やガスや水が止まったり、道路が壊れたりして、皆さんの生活が困ります。

大きな地震が起きたとき、逃げるが必要なのは、家が壊れたとき、大きな火が出たとき、逃げるときのお知らせが出たときです。皆さんの家が壊れていないときは、家にいてもよいです。

大きな地震が起きても、すぐに助けは来ません。3日間、家で生活できるように、水や食べ物、その他必要なものを用意してください。

大きな地震が起きたときは、川崎市のメールやX、インターネット、防災行政無線、ラジオから正しい情報を聞きましょう。

次は、津波についてです。津波ハザードマップを見ると、津波のときどこが危険か分かります。津波避難施設は、津波が来たときに逃げるができる場所です。こちらのイラストのようなマークのところが施設に貼られています。

津波から逃げるには、海や川から離れ、高い建物や津波避難施設のほうへ逃げてください。3階より上へ逃げるのが大事です。車は渋滞して逃げ遅れるので、歩いて逃げてください。また津波は何回も来るので、逃げたところから戻らないでください。

次は、避難所についてです。大きな地震が起きたら、一番初めに逃げるところは一時避難場所です。一時避難場所は家の近くの公園や空き地です。もし大きな火事が起きたら、広域避難場所のほうに逃げてください。広域避難場所は大きな公園や緑地で、川崎区では、大師公園や富士見公園、小田公園などです。

一時避難場所や広域避難場所に逃げた後、家で生活できないときは、家の近くの小学校や中学校の避難所に行ってください。避難所に行った後も、家が安全になったときは、家へ帰ってください。

避難所は家が壊れたり、壊れそうで困っている人が行くところです。川崎市の避難所は皆さんの家の近くの小学校や中学校です。避難所は主に地域に住む人が運営しています。

避難所には水や非常食がありますが、少ししかありません。皆さんも避難所に行くときは、水や非常食を持ってきてください。

避難所ではみんなが困っているので、皆さんも協力してください。避難所は準備ができるまでは入れません。水や非常食もすぐにももらえないことがあります。ペットは避難所の中に入れないので、ペット用のスペースに預けます。

こちらに書かれているものは、避難所に行くときに必要なものです。非常用持出し袋を作って、玄関に用意しておきましょう。

防災マップを見ると、避難所や水をもらうことができる場所などが分かります。防災マップは、この後のワークショップのほうで使います。

最後に、地域に住んでいる人の防災活動についてです。大きな災害のときは、すぐに助けは来ないので、近くに住んでいる人と助け合うことが大切です。

地震で閉じ込められたときに助けてくれた人のデータがあります。自分で出た人が一番多く、次が家族、その次が友人や近くに住んでいる人です。このデータから、近くに住んでいる人と助け合うことが大切なことが分かります。

地域の防災活動には、自主防災組織の防災訓練があります。自主防災組織は、皆さんのまちで助け合うために集まっている人たちのことです。避難所の運営も行います。防災訓練は、皆さんの命を守る方法を学ぶものです。

こちらの写真は、自主防災組織の訓練で仮設トイレを組み立てている様子の写真です。

防災に関する基礎知識と、地域の方が行う防災活動の話は以上になります。

これから、この後行うワークショップの内容を説明します。

1つ目は、防災マップを見て、皆さんの家、勤務先、活動場所を探してください。その場所から行く避難所も探してください。ルート上に危険なものがあるかも探してください。

2つ目は、今、お話しした説明を聞いて、気づいたことを話し合ってください。

司会：それでは、ワークを始めてください。この後11時から予定している意見交換の冒頭で、各グループどなたか1人、どんな話が出たのかを3分ぐらい話していただきますので、ワークの中で発表される方を決めてください。できれば、今回は日本語でお話しただけの方にお願ひできますとありがたいです。それでは始めてください。よろしくお願いします。

<意見交換>

司会：では、おそろいようですので、ここからの進行は福田市長になります。どうぞよろしくお願いいたします。

市長：はい。改めましてよろしくお願いします。

それでは、それぞれワークショップで話していただいた内容について、代表者の方から発表いただけますでしょうか。Aグループからいいですか。お願いします。

白聖壘さん：はい。Aグループの代表をしております白です。発表します。

Aグループの中では、意見としては、これは李さんですね。今、デイサービスの仕事をされていて、家と会社の距離がとても近い。なので、災害が起きたときには、すぐに職場のほうに行けるというような状況、環境にもあります。それを、仕事柄で、日常生活では、結構、防災に関する知識が持っていたりするということがあります。李さんからは、ふだんから防災の道具、アイテムを用意したほうがいいというようなことがありました。例えば、笛ですね。災害時のときに、例えば地震が起きたときに、廃墟の中に、脱出できないという状況があったら、笛を吹けばすぐに助けに来る、ここにいるよというようなメッセージ、外に対するメッセージが発出できるというような意見がありました。

そして趙さんですね。趙さんは、勤務先は都内にありまして、災害が起きたときに通勤が難しいのと、通勤の途中でもし災害が起きたらどうするかという話で、それもやっぱり、会社の所在である自治体のほうにも、そういう防災の予防策が必要だというような話も出てきました。

最後は何さんですね。大学生の何さん、土木を専攻としているわけで、災害時、徒歩帰宅支援ステーションというような、9都県市の取組があるというふうに知っていたらいいので、地震、東日本大震災のとき、確かに電車が止まっていて、家までは歩かなきゃいけないというような環境の中で、この災害時徒歩帰宅支援ステーションを利用すれば、何か誰かしら迎えに来るような話を伺いました。

私からなんですけど、先ほど資料の中に、地元の人と助け合うとか、そういうのを、避難所を地元の人が運営しているというような話があったんですけど、やっぱり日常的に地域の人との共生、交流、これが必要なんじゃないか思います。そういったことで、することによって地域における共生社会、これができるんじゃないかなと私は思います。

さらに、地域の日常的な、例えば避難訓練とかは、町内会、連合会ですかね、多分やっていると思うんですけど、一方で、外国人で、家計の環境で、日曜日にも働かなきゃいけないということでやっぱり参加しづらいということもありまして、一方で参加したくても参加できないというような環境の中にあるわけですから、そこはどうやって今後解決できるのか。それはもう課題の1つだと思います。

もう1つ、やっぱり行政側がこういう、今日、防災マップとかいろいろ拝見させていただいたんですけど、私やっぱり川崎区に5年住んでいて、こういう防災マップの存在も知らなかったんですね。これ

はやっぱり、どこから情報を入手するのか、私たちにとっては、どこから情報を入手したほうがいいのか。それと行政側はどうやって発信していくのか、多分、双方の課題が恐らくあると思います。多分、外国人住民、私個人の解決策としては、やっぱり転入のときに、住民票の写しの転入のときに、こういう防災マップとかを渡すというようなことは、多分渡してはいるかな。

神保リリベスさん：渡しています。

白聖壘さん：そうですね。だったら、私の課題ですね。あと多分、連合会町内会の方たちを介入して配っていただくということも必要じゃないかなと思いました。

これはAグループの議論の内容です。以上です。

市長：はい、ありがとうございました。

じゃあBグループですね。

ファム ドック フォンさん：はい。Bブロックのベトナム人チームですね。今日、私も18年間ぐらい日本で生きていますけれども、前から、ハザードマップをもらいましたが、そのときは日本語は全く下手な時期で、ハザードマップはただマップだけ、住所とかだけを見て、これ行きたいだったら行きます。だんだんグーグルとかマップがあって、もうハザードマップはもう忘れちゃったんです。

今日は、もうしばらく、もらってたくさん勉強しました。取りあえず、勤務のところとか、こちらから役所まで行くところと、避難所とかを見ました。一番気にしているのは、緑の、これは水を配るところ、災害のときにですね。2011年の大震災があったときに、私たちの住んでいるところは大丈夫ですけれども、でも、岩手とかとその辺まで、仙台まで、私とベトナム人のチームで一緒に行きました。ボランティアとして行きましたけれども、そのときに、やっぱり水はどこに、それが、給水が結構大切ですね。みんな、私も行って2日間だけですけれども、全く水がないときを体験できました。飲物もないです。だから今日も見ていたら、あったらいいですね、ただ自分が分かった上に、自分の従業員と自分の友達、ベトナム人に対して、何で今日は私と通訳者がいるだけです。やっぱり経験者は心配してきましたけれども、未経験者は何でもいいということでイメージして、結構危ないじゃないですか。自分の責任として、これハザードマップが分かりました上に、ベトナム人の同士にも伝えないといけないですね。

また区役所とか市役所とか、みんなやっているといますけれども、やっぱり各会社にこのハザードマップとかたくさん配るしたほうがいいですね。家までとか配りに来れば、一番うれしいですけど、でも、それは大変だと思いますので、だから企業により配ってくれて、これは義務みたいで、仕事みたいだったら、ほとんどみんな厳しく見て、これ、安心で準備するよと思います。

自分のほうも2011年は、そのとき全く分からないですけれども、でも2019年、台風19号の台風は結構大きいので、川崎とか影響していました。そのとき、KVSSの黒江さんと一緒に、個人的活動だけですが、私在家に居る際、台風がきて川崎区に住んでいる人のベトナム人は何とか分からない、心配していますので、だから国際交流センターから日本語のメッセージで届きました。その日本語メッセージで、ベトナム語に翻訳して、自分のフェイスブックへ流しまして、結構人は見に来ています。なぜかと、ベトナム人の習慣ですね。携帯とかは持っているんですけれども、メッセージを届ける、震災のメッセージを届けたときに、日本語ばかりでまだ分からないですし、スピーカーの上に何かアラームを再生して、結構、心配だけですけれども、何を言っているのか分からないです。今は私は分かりましたけれども、でも心配の上に、もっと日本語が難しいかなと思ひまして、ベトナム

ム人の習慣は、フェイスブックが大好きなので、その上にSNSですぐに流してから、ベトナム語で。みんな分かりました。避難のところが見えました。それは区役所とか市役所に繰り返していたいて、SNSとかでも活躍すればいいかなと、要は、これは個人ですね、考えますね。タンさんも同じ考えましたね。

その2点で、自分の体験と自分の心配なことがありました。

長く話すんですけども、もう1つだけいいですか。皆さんの、だんだん家族になって、子どもがもう小学生の子どもがいるんですね。まだ幼稚園に、保育園に預かっているのを、幼児もいますけれども、小学生になったら、私たちが小学校で避難訓練が何とか受けられました。だけど、幼稚園まで、子ども、5歳まで、ずっと幼稚園と保育園とか、防災訓練が結構少ないです。私は子どもは1年生になった瞬間に、避難所は小学校と分かりました。小学校は避難所ですねと分かりました。でもその前、全く分からなかったんです。避難があったら、何かどこまで行くのは、子どもの幼稚園で、幼稚園の避難所ではないんですね。ずっと分からなかったです。だからこれを子どもに、ベトナム人もフィリピン人も中国人も子どもがいる方は、本当に幸いです。まだ独身の方は全く避難所が分からないじゃないですか。どうすれば、外国人に対して小学校とか避難所を、役所を避難所としてご周知できますよと、それいいかなと、そのアイデアとかに提供させていただきます。その3点ですけども、ありがとうございました。

市長：ありがとうございました。

それでは、Cグループ、お願いいたします。

サマンサ ロイさん：はい。じゃあ、代表で話させていただきます。

まず話してみた感じだと、皆さん家族がいるので、子どもとかがいると、やっぱり学校の近くに住んでいる人が多く、避難所は比較的近いのかなと思うんですけど、その分、ほかの人もいっぱいいるので、まず譲り合いで行動することは大事だなと思いました。みんな家族、多分それぞれいっぱいいると思うんですけど、災害のときに、連絡が取れなくなったとき、ある場所を限定して合流する場所を決めておくと思いたなと思いました。ネットがなくなったら、本当にコミュニケーションを取る方法がないと思うので、今のうちに早い段階で話すといいと思いました。

話を聞いていると、皆さん大人なんですけど、私、ちょっと今日、おばと来なんですけど、子ども目線で話すと、大人の方たちは子どもを守るためにいろいろ調べたり、こういうところに参加してくれるんですけど、子どもたち、私たちの世代はあまり興味がないというか、危機感がないんですね。3. 11のとき、私は小学1年生だったんですけど、正直記憶に薄いというか、大人たちのほうが大変な思いをしているから、こういうところに参加して、今後どうしようって話なんですけど、私たちはそこまで耳にしないし、結局、今も平和ぼけで過ごしているし、こういう機会があっても絶対参加しないので、そういう子たちにどうやって周知をしようと考えたときに、今の子どもたちはネット依存症なので、ネットでこういう情報をいっぱい配信するといいなと思いました。

あとは、フィリピンのかいわいで話すんですけど、フィリピン人の子どもたち、結構、フィリピン人だけでかたまることが多いので、日本人向けに若い子たちに配信するのもいいと思うんですけど、そういう外国人の子ども向けに、目に留まるようなものがつくれたらいいなと思いました。

次に、外国人、みんなの問題だと思うんですけど、避難バッグを作ったときに身分証とかを入れるじゃないですか。パスポートや在留カード、それをまとめておくのはいいんですけど、いざ必要になったときに、それをかき回して、引っ張ってきて、持ってきて、また戻すという作業が結構面倒くさいと思うんですね。まとめて何かもう大変だなと思うので、役所とか手続とかするときに、原本が必要だと思

うんですけど、コピーとかで何とかなったらいいなと思うんですけど、でもそんな簡単な問題じゃないと思うんで、そこも踏まえて話し合っただけいたら助かるなと思います。パスポートや在留カードという重いものじゃなくて、何かもう1つ、身分証ができれば、いいのかなと思いますね。市内だけで使えるものとかでもいいかなと思うので、検討していただければと思います。こんな感じで終わります。

市長：はい。ありがとうございました。それぞれにいい視点を出していただいたと思います。

市長：ロイさんからもお話いただきましたが、それぞれの国のコミュニティというのは結構あると。フィリピン人の子どもたちも結構集まっているし、ベトナムのコミュニティもSNS上でつながっている場合もあるということなので、そのコミュニティがあれば、もう少しまい使い方があるんじゃないかなと思いますね。ですから、ベトナム人で川崎在住の方ですとか、あるいは川崎に住んでいてフィリピンの方というコミュニティがSNSなんかでつながっていると、日常的に伝えたい情報が伝わっていく。いざと言ったときにもそれが伝わるというやり方というのはあるんじゃないかなと、今、皆さんのお話を聞いていて思いました。ありがとうございます。

いい意見がありましたね。白さんからは、日常的に地域との交流をすることが大事だというお話がありました。今日は3名の川崎区内の町会長さんがお見えになっていますけれども、僕も、皆さんがワークショップをやっている間に、町会長さんとお話ししていたんですけど、皆さん、外国籍の方が来ていただくのは本当にウェルカム。だから日常的に接する機会を持ちたいというふうなお話で、傍聴者という立場ですけど、浦野会長、先ほど言っていた、もうちょっと交流する機会があったらいいなという思いみたいなものを持たれていたら、ちょっと発表していただいてもいいですか。

浦野会長：川崎区の池上新町って、コストコがございますよね。あそこの町会長の浦野と申します。

私も小さい頃から野球少年でしたので、例えば、川崎はスポーツのまち、それから音楽のまちということもありますので、まず皆さんが好きな分野、スポーツを通じてお互いにコミュニケーションを取ろうとか、それから音楽を通じてやろうかということも、今考えていますし、それから、学校とも連携しまして、防災訓練を学校でやりました。学校でやると、学校の生徒さんたち、それから先生方も、保護者の方も一堂に会して、うまくコミュニケーションが取れますということをいろいろ考えています。私はそうです。

飯島会長：ここから近い元木町というところの、今、町会長をしているんですけども。

私のほうは、防災訓練を1年1回やっていますけれども、そのときには、小学校を通じて、元木町に住んでいる生徒の親に、こういう防災訓練をやりますよ、起震車、体験できますよ、煙の体験やりますよ、ハザードマップは4種類あるんですけども、それも全部お配りしますよ、そういうチラシを子どもを通じて、学校から家庭のほうに持っていつてもらっている。そうすると、外国籍の人たち、家族でみんな参加してくれているんです。すごくそれはもう、私も評価しているんですけども、ただね、皆さんみたいな若い人たちがなかなか参加してもらえていないのかなと。若い人たちが来てくれると、トイレを設置したり、そういうちょっと難しい訓練もできるのかなと我々は考えています。

何が一番大切かという、やっぱり近所の人たちと会ったら挨拶する。顔を覚えてもらう。何かそこが出発点なのかなと。地域との交流の。そうすると、何かあってもね、私なんかもう72歳でおじいさんですけども、頑張っているとか、そういう会話ができるようになると、ちょっとよくなるのかなと、そう思っています。

市長：ありがとうございます。

吉村会長：はい。私、桜本1丁目の会長をやっています。

桜本というところは、ふれあい館の青丘社、いろんな外国の方がいらっしゃるんですね。公園も多いです。公園に、私、時々、犬の散歩で行くんですけど、外国の方と日本の方が一緒に遊んでいるんですよ、そういうものをね、どんどんどんどん広げていって、どうしてもそこの人だけで固まっているという傾向があるんで、もう少しコミュニティを広げて、やってもらったらいいかなど。

うちも今年は、本当は11月に避難訓練をやる予定でいたんですけど、ちょっと都合で、来年の2月にさくら小学校で避難訓練をやらせてもらいますので、またそのときは、ぜひ皆さん集まっていたください。結構、高齢者が多いんですよ。私も高齢者ですけど。本当に。やっぱり皆さんみたいに若い方が引っ張ってってくれる、いろんな方を援助してくれるということをもう少し広げてもらえばありがたいなと思っております。よろしくお願いします。

市長：ありがとうございました。

傍聴という形で来ていただいたんですけども、皆様から外国籍の方もウェルカム、地域で一緒に暮らしていこう、そのためにコミュニケーション、交流も図っていこうというようなすごく積極的なご意見をいただきました。ありがとうございました。

特に、先ほどお話ししていた浦野会長のところは、外国籍の若い人たちも町会の役員になってもらえるとありがたいとおっしゃっていましたね。今までに、自治会・町内会のイベント、地域のイベントに参加したことあるよという方、どれぐらいいらっしゃるんですか。3人。意外と少ないですね。やっぱり忙しいですか、知らないですか。どちらだろう。何さん、どうですか。

何玉萍さん：知らない。

市長：知らない。防災訓練は参加したことがありますか。防災訓練に参加したことがある方。結構、割合が高いですね。

レロイ ロレンテさん：会社とかやっていたので。あとは教会もやっています。

市長：防災訓練は比較的参加したことがある。地域の例えば、スポーツ大会とか、そうですね、運動会だとかそういうのに参加したことがある方。お祭りだとか、盆踊りとか。参加していますね。ありがとうございます。

そうですね。夏祭りと秋祭りだとかいろいろあるので、そういうお祭りのときに参加していただくと、もっとみんな顔が見える関係になってくるかもしれませんね。

もう1つ、聞いていいですか。ハザードマップを初めて見たという方はいらっしゃいますか。意外と知っている。みんな知っている。知っているけど、自分の自宅を確認したという方はいらっしゃいますか。確認した、していました。防災マップは知っているんだけど、自分のところがどうか、そしてどこに避難所があるか、どこに水場があるかということまでは調べていなかったということですか。

でも、どうでしょう。皆さんの周りの、例えばフィリピンコミュニティとかベトナムコミュニティ、中国コミュニティの方たちって、みんな防災マップを知っているかな。自分は知っているけど、あまり知られていないんじゃないかと。ご意見をいただいていいですか。

李清輝さん：僕は仕事上という、こういう防災の知識とか必要なんで、仕事を勤めてからはこういう防災のマップをよく見たりとか、どこが水が給水しやすいとか、水、水道水があるところとか、そういうのは初めて見たんですよ。ふだん家にいるときは、あまりこういう地図を見ないですね。仕事をしているから、こういうものがありますと、だんだん気づいていたんですよ。

市長：そうですね。お仕事上、すごく関わっているということですね。ご自宅にも、ご自宅と職場も近いというところでしたものね。ありがとうございます。

どうでしょう。マップのことについて。

アイリーンさん。

アイリーン エスコットンさん：防災マップを知っているけど、でも、そんな詳しく調べなかったんで、子どもの待ち合わせするところまでだけ調べて、でも、こんな、いろいろ書いてあるんだよという勉強になりましたんで、ありがとうございます。

市長：やっぱり、最初の知るというところ、関心を持ってくださいということもそうなんですけれども、知るって、こういうのがあるんですよというきっかけがないと、なかなかあれですよ。自ら進んで区役所に取りに行こうという人は、まあそんなに多くないでしょうからね。どうやってその機会をつくっていくかなんですけど、何かいいアイデアはありませんか。

ラレイーン ロレンテさん：例えばここに、ジャパニーズちょっと難しいかな。でも英語があれば、ローマ字があれば、助かったです。助かりました。

市長：何言語あるんでしたっけ、これ。

道場 フローデリザさん：英語のものはあるんですが、今日出されているものは日本語だと思いますが、でも、韓国語、英語、タガログ語と中国語とベトナム語のものはあります。ありがたいです。

市長：そうですね。大体5か国語ぐらいはそろっていますよね。

区長：6か国語あります。

市長：6ありますか。6か国語。ここに集まっている方の母語はそろっているということですね。だから、そのことも伝わっていないということですよ。

ヴォ ティ ホワイ タンさん：実はそれは難しいと思いますね。多分、それは国民性の特徴だと思います。例えば私たちのベトナム人は、いつものんびりで楽観的な考え方を持っているんですよ。そのときはそのときで、何かあったら周りの人、特に日本人の方に従って、一緒に行動したら大丈夫と思っている方が結構多いので、多分、ハザードマップは、せっかく配ってもらっても、見ないほうが多いと思いますね。

ですから、例えば、もうすぐ台風が来るときは、あなたの住んでいるところは危険ですよとか、SNSで広がったら、何とか気になるんですけど、ふだんの事前の準備とかはあまりしないと思います。

市長：国民性だと言われちゃうと、何となく困る、そこを何とかする手段を探したいなと思うんですけど。

ヴォーティ・ホワイ・タンさん：それは申し訳ないんですけど、それはもう特徴になってしまいますので、みんなはちょっと、何というの、災害とか避難とか、あまり縁起が悪い言葉とかをできれば避けたいと思って。

市長：なるほど。

ヴォーティ・ホワイ・タンさん：だから今は平和だから、今を楽しんでいますという考え方は結構多いです。

市長：そうなんですか。フォンさん、どうですか。そのとおり？

ファム・ドック・フォンさん：そのとおりですね。だから、最初もらったときに、ただマップだけとイメージしました。今、初めてじゃないけど、今はもう18年なので、子どもも何回でハザードマップもらった上に、今、気にしているんですけど。できれば、悪いこととかよくないことが考えないように。

市長：なるほど。でも、もしかしたら先ほど、町会長さんたちからありましたけれども、学校の防災訓練を通じて、子どもたちから親に伝わっていく、その危機感が伝わるというのもありますかね。

ヴォーティ・ホワイ・タンさん：確かにそうですね。例えば私の子どもは、学校で避難訓練を受けてから、地震が来たときは自動的にテーブルに潜っていて、お母さん、お父さんも一緒にやろうよとか、声をかけてくれて。私もちょっとそのとき認識して、何か避難訓練のことも気づいていたんですね。確かに子どもを通じて、親の教育は大切だなと思います。

市長：なるほど。どうでしょう。

サマンサ・ロイさん：今、話してみても思ったんですけど、こういうハザードマップを6言語とか出していただいていとなると、多分、川崎市の方が、上の方たちもやるべきことをほとんどやり切っているなと思っちゃって。あとは、多分、今の時代はネットなので、ただ、それを行動に移してくれるのもやっぱり大人の方たちなので、若い子たち向けにそれを考えられる人が、こういうところに参加してくれたらいいなと思いました。

市長：ありがとうございます。

実は2週間ぐらい前ですかね、18歳以下の子どもたちの子ども会議のテーマが防災でした。子どもたちがテーマを選んで、防災について考えようと。それに大人と一緒に考えているというミーティングをやったんですけど、大人では全く気づかないような子どもたちの話があって、大人たちもびっくりしたんですけど。やっぱり、お互いにコミュニケーションを取っていくって、それは外国籍の方と地域の日本人もそうだし、大人と子どもという切り口も一緒に議論しないと、全く気づかないということがあるんですね。

今、言っていたように、市役所としてはやっていることをやっているんじゃないのと言ってくれてうれしいんですけど、でも、伝わっていなければ、これ、仕事が終わったことにならないので、まだ道半分なんですよ。ですから、先ほど来、お話が出ているように、コミュニティ同士のつながり

が、フィリピンコミュニティの中で伝えられることがあれば、私たち市役所からはなかなかリーチできないものがあるので、そういった方法で少しでも伝われないかなというふうには思いますね。

白さん、どうですか。中国コミュニティという意味では。

白聖壘さん：そうですね。中国コミュニティはやっぱり、いわゆるWeChat、SNSのほうがすごく広がっているんですけども、ただあくまで中国人だけになってしまうというところがありますので、私は日常的にも、どうやって地域の日本人と交流できたらいいなのというのは、いつも思っています。なので、今、会長さんたちがおっしゃっているように、やっぱり何らかの集まりで、例えば祭りとか、恐らく、今、祭りが1番で集まりやすいんじゃないかなと思って。何かどこかを拠点とし、1年に1回に、そういったお祭りを開催して、その祭りの中では、防災に関するテーマとか、それを出展したりとか展示とかしたりとか、そういうようなことで、外国人も日本人も参加しやすいというような場を設けるといえることが必要じゃないかなと個人的に思いました。

市長：ありがとうございます。

趙さん、いかがですか。

趙曉東さん：僕もそうは思ったんですけど、せつかくこのようにたくさん外国の方がここに住んでいるのであれば、このような集まりがとても重要ではないかと思ひまして、もちろん、そのような防災の情報ももちろんですけど、それぞれの国のそういう情報とか、人々の会話の場所とても重要ではないかと思うので、このように祭りの感覚で、参加者しやすい感覚で皆さんも集まっていただければ、本当にいいんじゃないかと思ひしております。

市長：ありがとうございます。

こういう3か国の皆さんとの車座集会ということが初めての経験なんですよ。なので、通訳の皆さんも含めて非常にチャレンジングな会になっているんですけど、こういうこと自体が僕はすごくいいことだなと思ひていて。お互いの違う文化だとか認識だとかというのを、みんなで共有することができると思ひていて、こういう機会がもっともっと増えたらいいなと思ひんです。

ここは多文化共生プラザということで、オープンしたばかりですけども、実はもっと皆さんに活用してもらいたいなと思ひんです。特に今までワンストップの相談というと、国際交流センター、中原区にあったので、ちょっとここからは遠いと。特に川崎区は、先ほど言ったように市全体の中で35%も外国籍の方がいらっしゃるので、ここに拠点をつくって、みんなが交流できる、情報共有できるという場をつくったんですけど、どうですかね。初めて来たという方。大分、過半数を超えておりますので、この辺りも、もっと発信していきたいなと思ひています。こういうところで相談事もできるし、あるいは、少しおしゃべりしながらということで、情報が、例えばベトナムコミュニティの方にここで集まっていだいて、こんなことを話したよとか、何に困っているよというようなことを共有できる場になってくれたらいいなと思ひんですけれども、皆さん、いかがですかね。こういう場があると、少し来やすくなったりしますか。ご意見をいただければ。

ファム ドック フォンさん：そうですね。私も中原区の国際交流センターでの、何か月ぐらいアルバイトとしてとかで、相談員として働いていました。そのときは、やっぱり遠いところなので、駅から歩いて10分以上ですね。また中原区の真ん中で、車で行くのは便利だけど、逆に、普通、外国人は車を持っていないので、ほとんどみんな相談に行けなかったんです。

交流センターのところに、やっぱりそのところに来て、大体、情報だけをシェアしますので、だからほとんど、トラブル解決するのはまだできないと思いますが、でも今度、川崎市、川崎区の下に、役所の中で、交流センター、行政の「プラザ」とかでつくれましたので、結構力を持っていると思います。入管の方も来てくれるし、行政書士さんにも来てくれるし、それ、先ほど情報のシェアをしてくれたんですね。だから意味が結構あります。また、歩いて近いんですね。これは区役所なので。ただ外国人は区役所に行って住民票を登録しました、それから全く来ないんです。でも今度から、多文化共生プラザがありますので、みんながばんばんばん外国人が来てくれるわけでありますので、結構いいと思います。ぜひ、拡大するようにお願い申し上げます。

市長：ありがとうございます。

タンさん、どうぞ。

ヴォーティ・ホワイ・タンさん：補足なんですけど、また国民性の話になってしまいますけれども、ベトナム人では、行政の機関は結構何か怖い感じですね。そうですね。怖い感じですね。ですから、国際交流センターはただの交流センターという意味の名前なので、センター自身も外国人が集まっているところなんです。何とか簡単に行けそうなんですけど、ここは行政のビルなので、ちょっと入りにくい感じですね。入りづらいと。何か本当に行政の用事があったら、区役所とかそういう機関へ行くんですけど、でもわざわざ交流は何か入りづらいなと思っているし、ふだんは何か困ったことがあったら相談に行くんですけど、何かコミュニティの相談とか交流とか、別の公園とか、どこかの広場に行ったほうが楽だなと思う人が、多分、多いと思います。

だからこの場所は、ちょっと堅い気分、私が個人だと思いますね。

市長：はい。どうぞお願いします。

神保リリベスさん：私も国際交流協会というか国際交流センターに相談員として働きましたので、そこはちょっと川崎区の方からの相談が多くて、ここまで来てと、何回もそれを案内したんですけど、来られる人は来るんだけど、でもやっぱり遠い。今、せっかく多文化共生プラザができたので、ちょっと息苦しいとかそういうんじゃなくて、ウェルカムなんです。だから、こうやって国際的な小さな、明るくして、ふらっと入れて、ここで大きいテーブルで、そういうコミュニティのきっかけができたらいいなと思って。そう。これからですね。もうアピールしたいんですよ。

もともと区役所から、多分、時々区役所から、もうここで引っ張って、ここにこういうのができましたから、ここに来てくださいとか、気楽にここで座って、ここでコミュニケーションを取って、待合せとかでも、もうここで話をして、知らないこととかあったら説明します。みんな、あと、今アピールしているのが、特に外国人の方はビザ関係とかの問題が起きて、不安が多くて、ここは入管の人が来ますよという強みなんです。今まで、国際交流協会が入管で電話して問合せをしたほうがいいですよと言っていたのが、ここはもう直接、入管の人が来ますよ、行政書士の関係の話とかも、こちらは直接、話ができますよというアピールなんです。強みです。紹介してください。

ヴォーティ・ホワイ・タンさん：そうですね。ただ、今、私ちょっと何か強制的なところだと思い込んでしまったんですね。ですから、宣伝の言葉は大切だと思います。共生プラザの役割は何なのか、もうちょっと親しみの感を与えたいと思います。ほとんど、子育てとか教育とかビザ関係の困ったことがあったらぜひ来てください、それだけでは、自分が関係ないから来なくていいと思ってしまっただけで、もし、

さっき市長がおっしゃったとおりに、ここでベトナムのコミュニティの交流の場とか、フィリピン人とか中国の方の交流の場とかそういう言葉が出たら、何となく分かるかなと思います。

例えばテーマとかをつくって、例えば、何日、何曜日にベトナム人向けのイベントとかありますよとか、フィリピンのイベントとかがありますよとか、そういう宣伝があれば、とても助かるなと思います。

市長：いいですね。

はい、白さん、お願いします。

白聖壘さん：そうですね。皆さんがおっしゃっているように、やっぱり共生プラザがせっかくできたわけですから、やっぱり発信したいですよ。しかも利用してもらいたいですから、やっぱり広報というのは、結構、広報の在り方は結構問題だと思うんですね。ちょっと素直に言ってしまうと、行政のSNSって極めて人気がありませんので、なので誰も見ないというのは、そうですね。やっぱり、また会長のことを言っているんですけど、やっぱり地域の自治会、町内会の力で、もしね、地域の外国籍住民が入ってきたら、共生プラザがありますよ、ぜひ行ってくださいというようなことを、自治会、町内会を通してやっていただけたら、もうそれも1つの手でありまして、それと、確かにこの建物は堅苦しいですよ。なかなか入りづらいというのはありまして。

2つ目はやっぱり時間ですね。朝の何時でしたっけ。8時でしたっけ。

神保リベスさん：8時半です。

白聖壘さん：8時半から5時。サラリーマン、私たちのようなサラリーマンでしたら、もう絶対に相談したくても、利用したくてもできないですよ。これ、ぜひ夜間を開けていただけませんかというような話も、そうですね、ありました。

もう1つ、先ほどもずっと言っているんですけど、フェスタですよ。これやっぱり、活気のあるフェスタ、お祭りを1年に1回やって、先ほど上がってきた階段のところでステージをして、もう本当にそこで歌ったりとか、裏側で屋台をやって、食べ食いとか、そういうようなことをやったらおもしろそうだなと。

市長：結構、ここ、やっているんですよ。アジアフェスタとか、5月でしたかね。4月。このまさに裏を使って広場にして、各国の踊りとかやったり、食事なんかも各国の食事が出てきますよね。ただ、結構、国際交流センターだとか、皆さんが協力していただいて集まっているので、インターナショナルフェスティバルというのも、これは中原のほうでやっていますが、こっちでもアジアフェスタをやっていますし、アジアフェスタといってもアジアに限ったわけではないですよ。中心というだけなので、結構、幅広くやっていますね。もう少し、だからそこを、いろんなコミュニティの人たちに、外国籍の方たちに伝える方法という。なかなか日本語で伝えていくというのも難しいでしょうから、そういった意味ではコミュニティの力というのを貸していただければなと思います。

本当に、せっかくできたこのプラザですから、明るい雰囲気だとか、柔らかい空気だとか、来やすい雰囲気で、ちょっと時間の問題というのは課題としてありますけれども、そういった形にこれからしていきたいなと思っています。

何かありますか。コメント。プラザの関係で。

何玉萍さん：役所の出前相談なんですけど、役所じゃなくて、ビザに関して、ビザ。この間、ここの出前相

談を利用しました。自分は知り合いを、知り合いというか、を通じてここを知ったんですけど、なかなかほかの人だと、こういうものをやっているのが知らないと思うので、せっかく何か近いところにこういうものがあるので、ぜひ何か情報拡散、何かみんなに知られたらいいなと思います。

市長：そうですね。これは本当にSNSって非常に難しく、災害時もまさにそうなんですけど、正しい情報をどういうルートで伝えていくかということは本当に難しいですね。災害時は、特にデマですね。デマが多くて、そういうのが一番怖いですね。ですから、こういう情報をどこから発信して、当然、役所から発信するのが一番なんですけれども、それをどう拡散してもらうのかというのは、これは本当に課題だと思っています。

ですから、こういう信頼されている方たちが、川崎のこういった情報というのをうまく拡散してもらうと、すごくありがたいですね。そういう仲間をもっと増やしていきたいなと思っています。

何かこういうイベントがあったら、もっと地域とつながれるなとかというようなアイデアはありますか。これはやっぱり、今日、防災のテーマで取り上げていますけれども、防災という切り口だったら、皆さん何か非常に地域ということを考えやすいというテーマで選んでいるんですけども。地域とつながろうということが本来の趣旨なんです。防災が切り口になっているだけなんです。そういった意味では、もっと地域とつながっていくためには、どういうことが、イベントでもいいですし、どういう仕掛けがあればいいと皆さん思っておられるか聞かせていただけますか。

趙さん。

趙曉東さん：まず今日ですけど、せっかく皆さん、このような集まりをやって、まず、それぞれの力を使って広がっていくことはとても大事ななと思いまして、先ほどおっしゃった祭りもそうなんですけど、多分、皆さんは食べてすぐに帰るということになっちゃうと思うので、せっかくこのような多文化共生プラザができたので、中では、例えば国の地域や文化の違いとか、そういう相談の場をつくって、祭りと一緒に大きなフェスタをつくることとか、それがもっと広げることができるんじゃないかと思って、ただ食べ物だけじゃなくて、もっと国と国の交流をして、あと日本の文化とか、あと、そういう在留ビザの相談とか、祭りの中でも広げていければいいんじゃないかなと個人的に思っております。

市長：ありがとうございます。

楽しむことも大事なんだけど、プラスそこに情報だとかそのきっかけを、どうやってつくっていくかということですね。

趙曉東さん：そうですね。

市長：ありがとうございます。

いかがでしょうか。ちょっと区長に意見を聞いてみましょうか。今までのところで。

区長：はい。今日は皆さんありがとうございました。

やっぱり一番は、知らないということなのかなと。皆さんがいろんな情報を、マップにしても、聞いていて。どうやって知ってもらうかという、役所のSNSが下手だとかいろいろな話もありましたけれども、本当にそこを、まずは一番どうにかしたいなと。それで、どうやって出すか分からない、せっかく皆さんにこうやって集まっていたいたので、例えば何か情報、こういったイベントがありますよ、皆さんを通じて、皆さんのお仲間に伝えてもらうかというのが、今、聞いていると一番広がるのかな

と。今までそんなことは当然やったことはないんだと思いますね。行政から皆さんに直接情報をやって、こんなことがイベントがあるので、友達で紹介してくださいみたいな。それがもっとどんどんアメーバ状に広がっていけば、非常にもっともっと知られてくるのかな。まずはそこからかな。

1つだけ、最初の頃に、笛の話がありましたけど、今日防災の資料の例として玄関に備えてくださいという中に笛がなかったので、ぜひそれはあってもいいと思いました。ちょっと印象に残ったので。

市長：ありがとうございます。

今、国によってSNSは何を使っているかという違いがあるかもしれませんが、実は、フェイスブック上ですけれども、今、各区のちょっと活発に活動している市民、比較的若いメンバーが、ぐるっと高津とか、ぐるっとみやまえとか、そういうフェイスブックグループをつくっているんですね。そこに、例えば高津区だったら高津区の情報、こんなイベントをやっていますよとか、こういうおいしいお店がありますとか、行政情報として、これ必要な情報だからというのを、グループ内で拡散していつてくださっているんですね。それは結構まだ比較的新しい動きで、僕の知っているのは4年ぐらい前からかな。そういうコミュニティがどんどん増えてきたと。そこに活発に活動している人たちが、そのコミュニティの中に入っていくという形になっているんですね。

もちろん、いわゆる既存のコミュニティの中に皆さんに入ってもらおうということもすごく大事だと思いますが、もう1つは、先ほど来、出ているように、川崎に住んでいるベトナムの方、あるいはもっと狭く、川崎区に住んでいるベトナムの方という形でSNSのグループみたいなコミュニティができると、本当に伝えたい情報、信頼性の高い情報というふうなのを、そこで共有してもらえる可能性がある。そういうものの構築に、ちょっとぜひ核になってもらえれば、物すごくありがたいなと。先ほど、お話が出ている若い人たちにも伝えることができるとか、例えば川崎区の何々小学校で、来週防災訓練があります。何々町会さんが主催者です。ぜひ来てください。持ち物はこれこれですという話が流れていくとか、せっかくこの川崎区という共通の中であれば、国ごとのコミュニティもあるかもしれないし、既存のコミュニティの中に参加していくというリアルと、SNSというネットの世界もうまく使いながら広めていけばいいなと皆さんのご意見を伺いながら感じましたね。

区長：1つ聞きたいんですけど、実は今、そういうコミュニティが割と多い人数で既にあったりするんでしょうか。

ヴォーティ・ホワイ・タンさん：川崎区に住んでいるベトナム人の中では、例えば、大師地区のお母さん交流会みたいな、ベトナム人のお母さんとか、川崎区内に住んでいるベトナムのコミュニティのフェイスブックのページは持っていますね。今、動いているんですけど。さらにふれあい館が管理しているベトナム人向けの情報とかのページもありますし、ただ、まだちょっと正式な、公式な情報とかはまだ少ないので、多分そのページを通じて宣伝したほうがいいと思いますけれども、ただ、誰がやるか、それは問題ですね。

今、私が、ふれあい館が管理しているページの、ニュースとかを翻訳して、ふれあい館のほうアップしているんですけども、ただ、今、ふれあい館の発信したものの中で、詳しく情報は何の何の番号まで問合せしてくださいという、結局、区役所とか行政の機関に連絡しないといけないんですね。ですから、みんなはどうせ、そういう情報があるんですけど、でも詳しく知りたいのに、わざわざ区役所とか行政機関に電話しないといけないんだ、だから、面倒くさいなと思っている人は結構多いので、何とかちょっと、直接何か問合せとか、すぐ対応をしてもらえば、もっと効果的になると思います。

市長：ありがとうございます。

今の答えでいうと、まずあるということですね。

ヴォ ティ ホワイ タンさん：たくさんあります。

市長：ありがとうございます。

どうですか。フィリピンコミュニティ。

神保リリベスさん：フィリピンコミュニティも、やりたいのが多文化共生プラザとしているんですけど、フィリピンコミュニティのフェイスブックを使って、名前を、これから考えているんですけど、川崎区のフィリピンコミュニティというから、誰がメインというか、つくった人がメインになるんですけど、参加者、フィリピン、川崎区に住んでいるフィリピン人に参加者として誘うとか、参加してください、友達にしてくださいというような感じでつくったほうがいいかな。それか、ここに訪ねたときに、名前と電話番号とかで、川崎区の中のフィリピンコミュニティをつくりますよという感じの、どっちのほうがいいかなと考えております。

市長：なるほど。

神保リリベスさん：ここを使って、ここで集まる、集まってミーティングとか、まだ、どうやって始めるかを考えています。

市長：でも、今はそういうコミュニティがないということでもいいんですか。

レロイ ロレンテさん：いろんなコミュニティがありますよ。ばらばらだから。

神保リリベスさん：フィリピンコミュニティの中では、川崎区じゃなくて、大使館につながっているフィリピンコミュニティがいっぱいあります。

市長：なるほど。

ヴォ ティ ホワイ タンさん：ふれあい館にはそういうフィリピン人向けの。

道場フローデリザさん：そうですね、さっきもタンさんが言ったとおり、ふれあい館の翻訳、通訳をやっていて、タガログ語で発信しています。フェイスブックで。そのインフォ川崎というSNSのグループがあります。それにタガログ語で翻訳して情報を発信しています。例えば、子どもたちの学校のことに對して説明するとか、いろいろ川崎の区のことでも発信しています。

あとは、フィリピンの方はカトリックが多くて、大体、教会でグループはたくさんあります。・・・のコミュニティも、あとはフィリピンのグループもあります。いろいろ活動をやっているし、あと、来週、12月8日に、同じ防災訓練を行います。

市長：なるほど。

道場フローデリザさん：そうですね。会場が教会です。英語のミサ、今まで毎年やっているんですが、今まで日本語のミサの後、10時頃、あまりフィリピン人が、フィリピンの、英語のミサは2時からなので、だから日本語のミサは9時、大体9時のミサの後でやっていましたんですが、あまり参加者が少なく、今回だけ、今年から、来週からは英語のミサの後にしようと思っていまして、もっとたくさん参加者を考えています。それで、多分、もっとたくさん来るんじゃないかなと思っております。

市長：ありがとうございます。

中国コミュニティ、川崎区、中国SNSみたいなのはありますか。

管美慧さん：中国のコミュニティはふれあい館から定期的に発信するので、でも、相手は子どもたち向けよね。そのふれあい館に関わることを、そこでいろいろ、知ってほしいことは書いてあるので、区の中にあるとかは分からないので。

市長：なるほど。ありがとうございます。

本当に、これは外国人市民代表者会議の方にも、こういうコミュニティはつくれないものですかねみたいな投げかけをしたんだけど、なかなか難しかったのかなと思うんですけど。それから、これは市民代表者会議から、ウェルカムキットという、まず川崎に転入された方たちに、外国籍の方にこういうグッズというか、ウェルカムキットで分かりやすくパッケージ物をお渡しするということをやっているんですけど。それプラス、何かこれは行政としてはすごくやりづらい、なかなか難しいハードルなんですけど、どうやってSNSとか地域コミュニティとかに、信頼性のあるコミュニティに、ここだったら皆さんとつながれますよということをする、もっとちゃんと、みんな最初ファーストステップのときからつながっておけるということができるかなと思うんですけど、ちょっとそこは、まだどういうふうにお互いやっていくか課題としてはあるんですけども、ぜひそういったことにも、これからご協力いただきたいなと思っています。

大体時間になりましたので、今日は防災というきっかけでどうやって地域とつながっていくかということについてのお話を皆さんとさせていただいて、本当にありがとうございました。今日、私もいろんな気づきがありました。マップがただのマップになっちゃっているということとか、なかなか防災の大切なことも伝わりづらいなということも、国民性の話もありましたし、それぞれのコミュニティとどうつながっていくかという課題も感じましたし、また可能性も感じた会議であったと思います。今日は本当にご参加いただいてありがとうございます。

そして、ぜひこの多文化共生プラザをうまく皆さんで使い倒していただいて、その輪をもっと広げていっていただくといいかなと思います。お祭りだとか、防災イベントだとかいろんな方法で地域につながるという、白さんのいいキーワードもいただきました。ぜひ皆さんで、ともに共生社会をつくっていききたいと思います。今日は本当にありがとうございました。

司会：皆様、どうもありがとうございました。大変いい、活発な議論ができたかなと思います。

それでは、以上をもちまして、第70回車座集会を終了いたします。本日はご参加いただきまして、誠にありがとうございました。